



国のがん対策基本法が制定され、静岡県でもがん対策推進計画が策定されることになりました。その協議会に患者会の代表として参加することになりました。先日第1回会議があり下記の内容の発言をしました。ご意見があれば反映させますのでお寄せ下さい。

「静岡県がん対策推進計画」を作成するに当たり、骨子には戦略として「がん患者とその家族に対し、悩みや負担を和らげる方策を講ずる。」「患者のQOL向上に資する研究を進める」とある。これは非常にいいことなので是非進めてほしい。

私は県立こども病院血液腫瘍科の親の会の代表だが、私の娘が病院にお世話になった頃と今では病棟内の環境、医療は大きく変化し、小児がんは治る時代となっている。医療の進歩には感謝をする。しかし、病気になった子供たちにとっては突然痛い注射を強いられ、家族と離れて一人で病院で治療に向かう。これはものすごいストレス。子供にとって最大の仕事は遊ぶことで、辛さの中にも子供らしさが保てる環境を整えてあげたい。親のストレスも大変なもので、精神的なケアも必要。しかしこうしたことに対して十分な対応がなされているとはいえない。組織としてシステムの対応がなされるように望みたい。

<第148回 第149回 ほほえみの会>  
3人と5人の参加でした。

小学4年生女の子、悪性リンパ腫。9月頃から呼吸が苦しいと言い始め、喘息ではないかと思っていたが治らない。総合病院で診てもらったところ、心臓の横に腫瘍があることが分かり、こども病院へ。本人にも病気のことを医師と看護師が絵を書いて説明してくれたので理解をしたようだ。本人は病気とは思えないほど元気だが、ステージ3で1年間の入院といわれている。抗がん剤治療に入ったが副作用ですい炎が心配。

今後、二次がんや、生存率など心配、また小児がんの種類はどんなものがあるのかなど分からないことが多い。勉強をしていきたい。

その後、1回目の治療が終わって外泊の予定になったが、心配していた通り肺炎となり外泊ができなくなってしまった。

2歳男の子、悪性リンパ腫。先月下旬に突然発熱があり、かかりつけの医師に診てもらい薬を出してもらったが、3日後にわきの下に腫れができた。咳も出始めたので総合病院で診てもらったところ、こども病院を紹介された。

すぐに生検をして、最初は良性だろうといわれたので安心していたところ、悪性だとわかりショック。明日から抗がん剤治療に入る。今まで病気をしたこともない子だったので涙が止まらない。夜も寝られず、家で息子の茶碗を見ただけでも涙が出てしまう。親として病気の兆候を見逃していたのではないかと。抗がん剤治療は辛いだろうし、自分でどこが痛いのか、苦しいのか、自分の気持ちを言えないので心配。治療のプロトコールにも同意のサインをしたが、どういふものかよく分からない。

入院直後ということで、お母さんは最初、涙にくれていましたが、病気は親のせいではなく、原因は分からない。自分ひとりで背負い込むものでもない。こども病院に来れたので世界水準の治療が受けられる。子どもに笑顔で接してあげよう、など話をするうちに笑顔が見られるようになり、希望が持てるようになったと話していました。また、プロトコールについても出席していただいた堀越先生から分かりやすく説明をしていただきました。

さらに、病院の先生は怖くて質問もできないことが多いが、こども病院の医師は皆優しく話をしやすくありがたいと話していました。

県立がんセンターで研究をしています『がんの社会学』の中で、がんよろず相談Q&A 抗がん剤治療・放射線治療と食事 をまとめた本が出来上がりました。

治療により食欲がない、口の中やのどが痛い、胃が重い、お腹が張る、もたれる、吐き気があるなどの症状があるときに、どんな食事が良いのか、症状別のレシピの工夫などがカラー写真やイラストで分かりやすく解説されています。本は沢山ありますので欲しい方はご連絡下さい。お送りします。

次回は 12月 9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>